

『よるになると』

月刊かがくのとも 2009年7月号

松岡達英/さく

福音館書店



毎日セミがうるさいほど鳴き、命がひしめいている感じだった緑地にも、少しずつ秋の気配が戻ってきたでしょうか。暑すぎず、散歩が楽しい頃になりました。

良い香りがすると思ってあたりを見まわすと、クズの花が赤むらさきの花を咲かせ、その周りを蜂が飛び回っていました。足元からはバツが驚いて飛び出します。毎年この頃になるとおなじみの光景です。

でも夜になると、この光景は一変します。緑地を明るく彩っていたチョウやトンボ達は、草の陰で眠ってしまいます。かわりに出てくるのは？

月刊・かがくのとも 7月号「よるになると」には庭や河原、林などの昼の様子と夜の光景がページをめくるごとに丁寧に描かれています。

林の夜は、カブトムシやノコギリクワガタが樹液に集まっているようです。カラスウリが白いレースのような花を開き、スズメガが花の蜜を吸いにやってくるとか。タヌキやネズミたちも、走り回っているでしょうか。

一人で夜の緑地に踏み入れるのはちょっと勇気がいります。でも、何人が集まったら、懐中電灯を片手に一度は分け入ってみたい、いつもと違う緑地を見てみたいですね！もちろん、事故には充分注意して。

(小川)